

20	蒲郡	蒲郡市立形原中学校	氏名 センガ 千賀 エミ 愛実
分科会番号	8	分科会名	音楽教育

研究主題

豊かに感じ、表現する生徒を育成する音楽科の授業

中学2年創作「和音を生かした旋律で赤電 CM ソングを創ろう」の実践を通して

1 本研究について

生徒たちは昨年の実践で、地域の良さを音楽で伝える、形原のメロディ『形メロ』を創作した。これは、総合的な学習の時間での「地域学習」を音楽の学習へと広げ、形原について学び、魅力を感じた生徒たちが、形原の良さを音楽で伝える取り組みである。創作活動では、音楽創作アプリ「カトカトーン」を使用し、4小節の音楽を創作した。生徒たちは、音楽を形づくっている要素の音色・音のつながり方・速度を工夫し、決められた和音に旋律やイメージした音を創作した。題材の終末では、自らが撮影した写真と合わせ、映像作品として発表した。その作品を「多くの人に聴いてもらいたい」という生徒の思いから、ローカルテレビでの放映をはじめ、蒲郡市観光交流センターや公民館など、形メロを地域に紹介し、生徒たちの願いを達成させるものとなった。

生徒たちは、自分の音楽が形となり奏でられる喜びを感じる一方で、振り返りには「明るい曲にしたかったけど、暗くなってしまった」「思いを伝えるために、長い曲を創りたい」など、もっと思いを表現する方法を知りたい、もっと自分の音楽を追究したい、という思いをもった生徒が多くいた。また、完成した音楽を自分で演奏することはなく、電子音での演奏発表だったため、「自分の作品を自分で演奏したい」という生徒もいた。

本年度は、昨年の音楽の授業での取り組みを知った地域の方からの願いもあり、『赤電 CM ソング』を創作することとした。創作した8小節の作品を、歌声で表現する実践を考えた。生徒たちは、和音の響きを感じ取り、和音を生かした旋律創りをする。そこで、音楽を形づくっている要素のリズム・旋律・構成・和音・速度を工夫させたい。本実践を通して、音楽に込めた思いや願いを、表現したいという思いに繋がってほしい。伝えたい思いと音楽を形づくっている要素とを結びつけながら試行錯誤を重ね、グループで聴き合わせ、作品と向き合ってほしい。そして創った音楽を歌声で演奏する中で、表現する楽しさを感じてほしいと願い、本研究の主題を『豊かに感じ、表現する生徒を育成する音楽科の授業』と設定した。豊かに感じ表現する姿とは「伝えたいという強い思いをもって音楽表現を試行錯誤し、自分の思いやイメージを音で表現することを楽しんで活動をする姿」にとらえ、研究を進めることにした。

2 研究の構想

(1)めざす子ども像

- ・仲間とかかわりながら追究し、自分の思いやイメージが伝わる「赤電 CM ソング」を楽しみながら表現する生徒。
- ・和音の響きを感じ、和声音をもとに自分の思いやイメージと和音をつなげることができる生徒。

(2)研究の仮説

- 仮説Ⅰ** 生徒たちの生活に身近なテーマで、**追究意欲を持続できる題材を構想**したり、**仲間とグループでのかかわらせ方を工夫**したりすれば、試行錯誤を重ね、自分の思いが伝わる「赤電 CM ソング」を表現するだろう。
- 仮説Ⅱ** **生徒たちが何度も見たり聴いたりできる教具を活用**し、**和音進行を選択**させれば、自分のイメージに合った和音の響きを感じ、和声音を意識して、旋律創りをすることができるだろう。

(3)仮説に迫る手だて

◇手だてⅠーア 名鉄赤い電車の応援をテーマとした生活目的のある題材構想

生徒たちが生活や通学で利用する名鉄西尾・蒲郡線（通称赤い電車＝赤電）は、形原の町民にとってなくてはならないものである。しかし、利用者の減少から存続が危ぶまれている状況である。導入で、昨年の音楽作品を見た地域の方からいただいた「名鉄赤い電車を応援する音楽を創ってほしい」というビデオメッセージを鑑賞することで、生徒たちは「赤電を残すために自分たちにできることをしたい」という強い思いをもつだろう。生徒たちは、多くの人に歌ってもらえる CM ソングを創ろうという、題材を貫く追究意欲をもち表現活動をするだろう。

◇手だてⅠーイ 意図的なグルーピングをしたグループ活動

タブレットによる個人追究で自分の考えと音にじっくり向き合う中で、困り感が生まれるだろう。また、客観的な意見を求め自分の作品を聴いてもらいたいと思うだろう。そこで、音楽が得意と感じている生徒や昨年の学習の様子から、創作活動に前向きな生徒を意図的に配置したグループでのアドバースタイムを設定する。個人追究時でも席をグループでの配置にすることで、聴き合ったり歌い合ったりして、音を使ってかかわり合う姿が生まれ、表現を楽しむことができるだろう。

◇手だてⅡーア 創作活動を活発にする、ICT機器の活用

タブレットの音楽創作アプリを活用する。創った音楽を気軽に再生でき、記譜を必要とせずに活動できるため、記譜や演奏技術が足りない生徒も何度も聴いたり直したりして試行錯誤の場を生みやすい。生徒たちが考えたアイデアをより鮮明に、瞬時に具現化することができるだろう。振り返りでは、過去の自分の作品と比べることもできるだろう。また、歌詞の言葉をリズムにする段階ではリズム創りアプリを活用し、創作活動を支えることができるだろう。

◇手だてⅡーⅠ 自分のイメージに合った、和音進行の選択

長調や短調など雰囲気異なる複数の和音進行の中から選択し、旋律を創る。【資料1】生徒たちは自分のイメージに合う和音を選ぶために、和音にじっくりと耳を傾け、響きの違いや変化に気づいてくことができるだろう。

(4)題材構想(全6時間)

A さわやか進行

B あったか進行

C しっとり進行

【資料1】提示した和音進行

活動内容	手だて
今年も音楽を使って形原を盛り上げたいな ① - 赤い電車の存続を応援したいな。宣伝する CM 曲があったら話題になるかもしれないよ - カトカトーンを使えば音楽が創れるね - CM 曲はどんな特徴があるのかな - 旋律がわかりやすく、口ずさみたくなるね。 - CM 曲には歌詞が必要だね、短歌みたいなのがいいのかな 和音の動きと旋律を生かして、 赤電 CM ソングを創ろう 思いやイメージが伝わる、赤電 CM ソングを創ろう①② - 赤い電車が地域の人に愛されている温かい曲にしたい - 明るい曲にしたいから「A さわやか進行」を選びたい。今年は8小節の曲を創るんだね - 歌詞は「いつまでも 思い出運ぶ 赤電車・・・」にしたよ。リズムは♪♪を当てはめてみよう - 旋律には、和声音と非和声音があるんだね。今感じる歌いにくさと、かかわりがあるのかな どうしたらもっと歌いやすい 「赤電 CM ソング」になるのかな ③ - リズムの繰り返しを増やしたい（構成） - 言葉に合ったリズムにしたい（リズム） - 和音に合った旋律にしたい（旋律） 和音に合った旋律にしよう～アドバイスタイム～④ - 和声音を多く旋律に取り入れたら歌いやすくなったよ - 和音と旋律の関わりって大切だね。アドバイスをもとに、もっと自分の CM ソングをレベルアップさせたいな 「赤電 CM ソング」をもっと追究したいな ⑤ - 後半のリズムを♪♪♪にして迫力をだしてみよう - 温かい雰囲気を出すために、順次進行の上行を多く取り入れてみたよ。作品をみんなに聴いてもらいたいな 私の「赤電 CM ソング」を聴いてもらいたいな ⑥ - 和音に合った旋律ですっきりしたな - 創った CM ソングを歌うのが楽しみな	①創作意欲を持続させるために「にしがま線応援団」からのビデオメッセージを流す。 ①創意意欲を高めるために、総合的な学習のテーマである「地域」と、歌詞は国語科の「短歌」を用いる。 ①CM ソングの特徴に気づかせるために、実際の CM ソングを鑑賞する。 ②個人追究の時間を多くつくるために、比較的簡単に操作できるアプリとリズム創りアプリを用いて作曲する。 ②和声音と非和声音に注目させるために、3つの和音進行パターン（4/4拍子、8小節）から自分の思いに合った和音進行を選択する。 ②自分の作品をじっくり追究するために、イヤホンを配付する。 ④困り感を解決し、新しい考えに気づくために、仲間と音楽を聴き合い、話し合う「アドバイスタイム」を設定する。 ④創作活動を活発にするために、意図的なグルーピングをする。 ④⑤仲間とのかかわり合いで生まれたアイデアを作品に生かすために、追究の時間を設ける。 ⑥自分の作品を多くの人に聴いてもらうために、発表する場を設ける。

＜こんな生徒に＞

- 和音の響きや、和音の構成音を意識した旋律づくりを追究することができる。
- 音楽の様々な要素の特徴を活かした音楽表現の工夫をして創作活動をし、自分の考えを音楽で表現できる。
- 仲間とかかわりながら和声音を意識して試行錯誤することで、自分の思いやイメージを表現することの楽しさを感じて音楽活動ができる。

3 研究の実際と考察

(1)赤い電車への思いを膨らませ、「赤電 CM ソング」の歌詞を創る生徒 A(手だてⅠ-アの検証)

生徒たちは、昨年の「形メロ」の放映を見た地域の方から届いたビデオメッセージを鑑賞し、赤い電車が存続の危機であることを知った。生徒たちは、赤電が生まれて初めて乗った電車だったことや、部活動の練習試合の帰り道、電車に揺られてみんなで寝てしまったエピソードなど、思い出を語った。多くの生徒が将来進学や通勤で電車を利用することになると考え、自らの生活に欠かせない大切なものであり、守り続けたいという思いを膨らませていき、その思いや願いを、音楽で伝えたいという声が上がった。昨年の創作活動からレベルアップさせた歌を創る本題材に「楽しみ！歌ってもらえる CM ソングを創りたい！」という声が生徒から聞こえた。この言葉から、生活目的のある題材によって、追究意欲が高まったことが分かる。赤い電車の利用者を増やし、これからも形原の町を走ってほしいと願いをもって、赤い電車を宣伝する「赤電 CM ソング」を創り始めた。

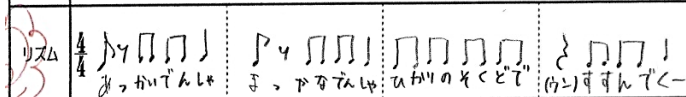
第1時では、CM ソングの特徴を探っていった。旋律づくりのイメージをもち、そこに隠された音楽を形づくっている要素（リズム、反復）に気づくように、有名な CM ソングを鑑賞した。生徒は「くり返されているリズムと歌詞が多ければ、耳に残りやすく、歌いたくなる CM ソングになるだろう」と考えた。

歌詞創りでは、国語科で学んだ「短歌」の技法や言葉のリズムも生かしながら、思いを込めた歌詞を考えました。生徒Aは「赤い電車の見た目の、明るくてかわいいイメージを伝えたい。赤電の良さを伝えたい」という思いをもち、「あっかい電車 真っ赤な電車 光の速度で進んでく でっかい電車 すっごい電車 赤い 電車！」という歌詞を考えました。

(2)リズムを考え、選んだ和音進行に旋律を創作し始める生徒たち(手だてⅡ-ア、イの検証)

歌詞を考えました生徒たちは、言葉にリズムをつけ始めた。生徒たちは歌詞を言いながら手を叩き、自分のイメージに合うリズムを探した。しかし、記譜を苦手とする生徒が多く、考えたリズムをワークシートに書き留められない生徒が多くいた。そこで、リズム創りアプリを活用した。これは、画面上で選んだ音符を並べるとリズムが再生されるアプリである。

これを用いたことで、生徒Aも自分の力で記譜することができた【資料2】。生徒Aにリズムを演奏してもらったものとワークシートの記譜に間違いはなく、タブレットの活用は有効であったと言える。

前半 (4小節)	
歌詞	あっかいでんしゃ まっかなでんしゃ ひかりのそくどでっかい電車 すっごい電車 赤い 電車！
リズム	

【資料2】言葉のリズムを生かした、生徒A のリズム譜

生徒たちは提示した3つの和音進行を、何度も聴き比べて、自分の伝えたいイメージに合った1つを選んだ。和音の響きを何度も聴き比べ、生徒Aは、「地域の人から愛されている」というイメージから「あったか進行」を選んだ。その姿から、複数の和音進行を提示したことは、和音を意識させることに有効だったと言える。

記譜ができた生徒たちは、音楽創作アプリ「カトカトーン」を用いて、音価を確認しながら正確に音を入れていった。生徒の音楽技能に関係なく、誰もが再生し確認できるため、生徒たちは自分の考えたリズムを何度も聴き直し、イメージ通りの音楽になっているかを確認していた。再生しながら、「違うな、もっと弾んだリズムにしたいな」など、伝えたい思いがリズムで表現できているかを考え、工夫し始めた。生徒AはCM ソングの特徴であるくり返しを意識し、リズムの反復を使って、歌いやすさを工夫した。

旋律の音程を考え始めた生徒Aは、順次進行を意識することで、歌いやすさを追究した。この日の振り返りには「和音進行に合っていなかった。(中略)納得できません」と記入されており、生徒Aは和音を意識して旋律を創っていることが分かる【資料3】。また、「班の人に聞いて案をたくさん出して合わせた

今日の振り返りと次回の目標！
今日音の高さをかえてみてしっくりくるところはしめてきたけど、和音進行に合っていなかったり、ぼう読みなところかあってなっとくできませんでした。
次回、班の人にきいて案をたくさん出してそれを合わせたいです。

【資料3】第3時の生徒Aの振り返り

い」という記入から、創作活動に行き詰まり、自ら仲間とのかかわりを求める様子が読み取れる。そこで、次時では意図的にグルーピングした少人数の班でのアドバイスタ임을設定した。

(3) 和音に合った旋律にするためにグループでアドバイスし合う生徒たち(手だてⅠ-イ、Ⅱ-ア、イの検証)

生徒Aは、和音進行と旋律が合っていない原因は、高い音を使っているからではないかと考えをもって第4時のアドバイスタimeに臨んだ。第4時の学習目標を「和音に合った旋律にするためにはどうしたらいいのだろう?」とした。アドバイスタimeでは、より旋律の音に注目させるために、1～4小節目のみに絞った話し合いを行った。生徒Aのグループ4人はお互いの音楽を聴き合い、歌い始めた。しかし、旋律がどうしたら和音に合うのかアドバイスは生まれなかった。教師が巡視した際に、グループに対して、歌いやすい小節と歌いにくい小節の違いについて問いかけをした。生徒Aは考え込んでいる様子だったが、同じグループの楽譜が読める生徒Bは和音の構成音の違いに気づき、試しに旋律に和音の構成音を多く使った旋律を再生した。生徒Aは和音と旋律のかかわりに変化を感じ、生徒Bに「和音の構成音をどう使ったの?」と質問した。生徒Aは自分の音楽が1小節目のドミソの和音に対して、旋律の音がラ・シb・シを使っていることに気づきその場で音を変え始めた。全体では、他のグループの生徒Cの前時の作品と、アドバイスタime後の和声音を使った作品を鑑賞した。旋律の変化に驚いた生徒たちの「おお～!」という声が教室中に響いた。「和音と合っていてすっきりした!」と声が上がり、和音に合った旋律を耳で感じ取っていた。教師の「どんな工夫をして和音に合った旋律を創ったの?」という問いかけに対し、生徒Cは「和音の音から旋律の音を選んで変えた」と答えた。その発言に対し、生徒Aは強く頷く様子があり「さっきグループで話したことと同じだね」と、生徒Bと対話する姿が見られた。和音をつくる音を「和声音」それ以外の音を「非和声音」と呼ぶことを学んだ生徒Aは、その後の個人追究で何度も旋律の音を変えては聴いてをくり返し、試行錯誤を重ねる姿が見られた。生徒Aは1小節目に和声音を多く

第3時

第4時

【資料4】生徒Aのアドバイスタime前後の旋律比較

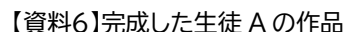
使う工夫をし、その旋律を反復させた【資料4】。生徒Aは生徒Bに「変えた音楽を聴いてほしい」とイヤホンを渡した。生徒Bから「1・2小節目さっきより和音に合っている感じで歌いやすいよ」と言われ、嬉しそうに笑顔を見せた。さらに生徒Bから「もう少し音の高さが低くなったら歌いやすくなるよ」とアドバイスをもらい、生徒Aは再び作品に向き合い始めた。振り返り時には、生徒たちに前時の作品と第4時で創った作品を聴き比べるよう指示をした。多くの生徒は、第4時の授業を経て、自分の作品が和音に合った旋律に近づいた実感を得ている様子で、嬉しそうに仲間と聴き合う姿が見られた。生徒Aの振り返りには和声音と非和声音の学習を経て「和音に合った音程を考えてみて実際に聴きやすくなっている

活用した創作活動は有効だったといえる。また、和音進行を選択させたことは、仲間の和音構成音を把握でき、アドバイスを活発にさせ、有効だったといえる。和声音・非和声音を学習しその効果を実感した生徒たちは、和音に合った旋律で歌いやすい「赤電 CM ソング」を創るために、再び追究を始めた。

【資料5】第4時の生徒 A の振り返り

完成した生徒Aの作品は、第3時の作品に比べ和声音が多く使われ、歌いやすい音域に工夫されている【資料6】。タブレットをスピーカーに繋ぎ、大きな音で再生された自分の「赤電CMソング」を聴く生徒たちは少し照れながらも、誇らしげな表情で歌の練習を進めた。生徒Aは仲間に「4回繰り返されるリズムは、8分休符があるから、かわいらしく跳ねるように歌ってほしい」と、作品に込めた思いと歌い方の表現を指示していた。この姿は、今までの音楽活動において、自ら楽

譜の意図を読み取り表現を考えることが苦手だった生徒Aにはなかった姿であり、この題材への強い思いと作品への愛着があるからこそその発言である。生徒にとって身近で生活目的があり、思いを強くもつことができる題材構想は有効だったといえる。生徒の中には、前に立って自分の作品を指揮をする姿もあった。生徒たちは、作曲者を前に赤電 CM ソングを一生懸命に歌ったり、自分の作品が仲間の声によって演奏されたりする経験を通して、音楽を表現することを楽しんでた。



◎生活目的のある題材構想と発表の場を設定したことで、追究の強い動機付けとなった。地域の人を意識することで表現が広がり、音楽を「生活や社会との関わり」に生かすことができた。

◎学習目標「和音の動きと旋律を生かした赤電 CM ソングを創ろう」を設定したことで、自分のイメージに合った和音進行を選び、和音を意識した音選びを旋律創りで生かす姿が見られた。

●作品を聴き合い、歌い合う中で仲間とかかわり合う姿が増え、より追究を深めることができたが、自分の作品に自信をもって歌で発表するために、練習時間を題材構想に計画的に組み込む必要性を感じた。

学級での発表会では、曲が流れるたびに「おお！」と声上がり、仲間の作品に感動する様子が見られた。また、地域の方から声がかかり「名鉄西尾・蒲郡線利用促進大会」にて作品を放映した。代表生徒の作品を学級全員でレコーディングを行っ

た。レコーディングの時間では、「横に揺れながら歌いたい！」と生徒から提案があった【資料7】。楽しんで作品を歌う姿が見られ、作曲した生徒の歌に込められた願いや思いを豊かに感じ、歌声と身体で表現する姿が見られた。生徒が思いをもって取り組める授業を作り実践することが「豊かに感じ、表現する生徒」を育てることにつながると考え、今後も実践を重ねていきたい。

